

合格

参加候補者調査記録

ふりがな	はなさき かおる
氏名	花崎 薫
生年月日	2007年10月12日(16歳)
願い	殺してほしい

記録

花崎薫の特異性は、なんといっても応募時の願いに表れている。

「殺してほしい」

それも、

「優勝して、願いを叶えてもらうかたちで殺されるのではなく、

途中で敗北し、脱落の罰として殺されるのが望ましい。

できるだけ苦しい死に方だと なお良し」ということだ。

正直なところ、意味不明だ。しかし、応募理由の「そうなるべきだから」という一言に興味を惹かれたため、今回候補者の一人として、バックボーンを調べてみることにした。

花崎薫は、ミッション系の女子中等教育学校の生徒。

今年は高校1年生になる年齢のはずだが、現在学校には通っておらず、

それどころか家にもろくに帰らず、あちこちを放浪するという奇怪な生活を送っているようだ。

こう書くと、いかにも不良のように思われるかもしれないが、

調べた限り、花崎はそういった枠組みとはまた違う人間のように感じる。

現在の彼女については、残念なことにあまりうまく情報がつかめなかった。

そもそも、所在が不明なため、関係者に聞き取りのしようもない。

しかし、彼女が放浪生活をする前、

「殺してほしい」と願うようになったきっかけと思われる事件や生い立ちについては調べがついたので、以下に書いていく。

花崎薫の家族は、両親と祖母、そして猫。住まいは一軒家。
小学生の頃は、運動神経の良さを活かし、男子にまぎってスポーツで活躍することが多かった。
茶目っ気のある性格で、よく笑い、よくふざける。
気が利く質で友達も多く、どこにいても目立つ存在。
卒業アルバムや文集などから見てとれる花崎薫は、眩しいほどの「人気者」だ。

その後のことは、彼女の同級生から聞くことができた。
花崎は、ミッション系の中高一貫校に進学。
のちの親友に誘われて、バスケットボール部に入部した。
それからは、常にチームのエースとして活躍。
2年目の大会では、勝てるはずがないと思われていた強豪校を破るにいった。

花崎にとって、部活の仲間たちは特別な存在だったようだ。
特に、親友を含む同級生とは家を行き来することも多く、
放課後や休日にもよく集まって遊んだという。

話によると、彼女は「人が大好きな子」だったらしい。
父からおさがりの一眼レフを譲りうけてからは、
写真という趣味を得て、景色よりも友人たちを撮ることを楽しんだ。

そしてその後、3年のクラス替えで、花崎はついに親友と同じクラスになる。
なんでも、親友が教師に直談判して、同じクラスにしてくれるよう頼み込んだらしい。
このとき、嬉しそうにはしゃぐ二人の少女の姿が、今でも忘れられないと同級生は言った。

花崎の通う学校では、外部受験を望まない限り、エスカレーター式で高校に進学できる。
スポーツの成績が優秀だった花崎は、バスケット部の強豪校から推薦入学の誘いをかけられていたが、
受けることはなかったという。

そして、3年の終わり。区切りとして設けられていた修学旅行の当日に、事故は起きてしまう。
その日は、集合場所に集まってから、クラスごとにバスに乗ってキャンプ場へ向かう予定だった。
花崎は、その朝、10分ほど遅刻して集合場所に顔を出す。
クラスメイトを乗せたバスは発進し、山間部も半ばに入ったところで、落石を受けて道から転落した。

多くの生徒が犠牲になり、花崎の隣に座っていた親友も命を失った。
しかし、花崎は奇跡的に、かすり傷を負った程度でこの大事故から生還する。
10分の遅れがなければ、事故には遭わなかったかもしれない。
花崎は、遺族から糾弾され、やがて、一家は押しかけてくる人々から逃れるように、住まいを変えている。

花崎はこの件について、言い訳も何もしなかった。
しかし、同じく生存者の同級生は、こう証言する。

「あの日、薫は私たちに、来る途中で人助けをしていたんだと言っていました。
大事な物をなくして、困ってるおばあさんがいたからって。
なのに、私が病院で目を覚まして、
一度だけ会いにきてくれた時、薫は私に『何も言わないで』って」

生々しい事故の傷痕を身体に残す少女は、花崎の今を気にかけて。
どうやら、どんなかたちで連絡をしても、まるで返事がないらしい。

しかし、これで、花崎の願いの理由ははっきりしたように思う。
自分を許せない彼女は、死という罰を求めている。
同時に、なんらかの信条から、自死は認めていない。そんなところだろう。

個人的な同情がないわけでもないが……
前の儀式では、死への抵抗感が強い者がいたための苦労もあったと聞く。
今回は、よりその傾向が強くなると思われるが、一人このようなタイプがいれば、
少しバランスが取れてちょうどいいのではないだろうか。

達観した精神、強い責任感の持ち主であることを踏まえても、今回の候補者に推薦していいと思う。

【追記】

やはり、願いの裏にあるのは事故のことだったようだ。
かなり飄々とした少女だが、この件について触れられるとナーバスな気配を見せる。

今回の儀式の目的上、参加者たちには、できるだけ長く生きのびて、視聴者から人気を集めてもらう必要がある。そのため、花崎には、ゲームの仕様は伏せつつも、「本当の願いは隠すよう」指示を出すことにした。

彼女にとっては、真逆の願いである「生きたがる演技」を強いることになるが……、
花崎はこともなげに、「そういうの得意だよ」と笑った。